

コロナ禍でも動きを止めない「地域福祉」

川越市ふじくら地区では、小地域福祉活動を市社会福祉協議会及び地域包括支援センターだいたいの支援のもと、コロナ禍でも伸び伸びと活動ができています。

ふれあいサロン

A・Bグループに分けて3密を避け、何とか当初計画の半分開催しました。



検温・消毒 分散開催

できることは自分たちで



ふれあい花広場

年間通して休むことなく、40名が交代で花の世話や小学校低学年の見守りを実施しています。



いつもありがとう

地域への感謝の
思いから始める!!

さりげない見守り活動

52名のふれあいサロンメンバーが見守り員となり、サロン開催が少ない今「お元気ですか?気になること、心配事はないですか?」を合言葉に、ご近所の高齢者宅への軒先訪問を実施しています。

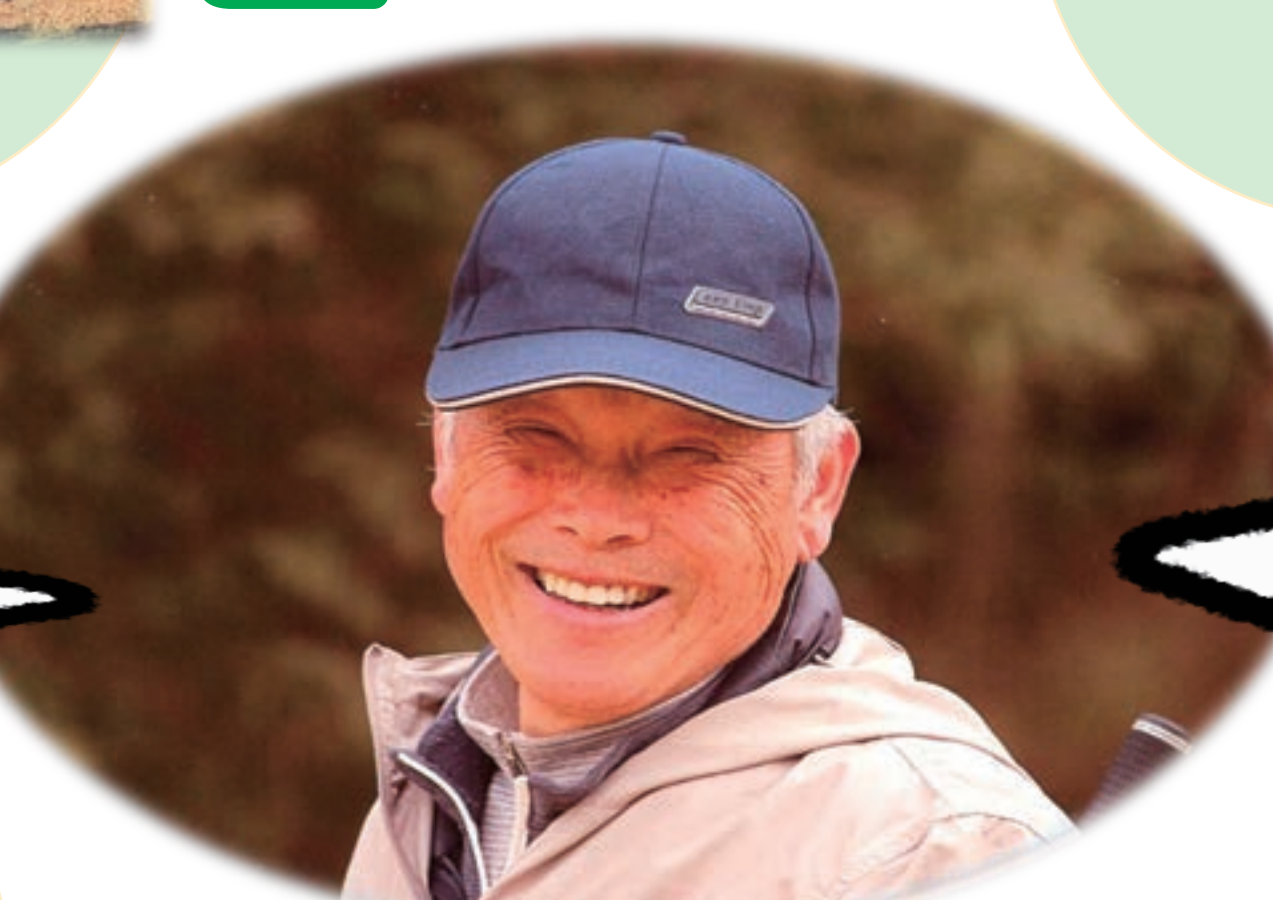
みんなに会えて嬉しい!

地域包括支援センターとの連携

自宅でもできる、日めくり介護予防の冊子が届きました。自宅でもサロン活動でも活用しています。



止めない「地域福祉」 コロナ禍でも動きを



地域高齢者福祉事務局 大嶋照伸

今までは自由に移動したり集まったりすることの重要さを伝え実践してきました。しかし、コロナ禍で「移動や集い」が制限される中、どうしたら自粛生活を楽しく、心豊かにできるかを心がけてきました。その一年間の行動を紹介致します。

たすけあいの会

ふれあいサロンから発展した助け合いは、介護保険で対応できない部分の小さな困りごとを解決する地域になくはない「たすけあいの会」となりました。徐々に活気を取り戻しています。

できる人が
できる時に
できることを



自分一人では到底不可能でも、地域の「チカラ」を借りれば多くのことが解決できることを実感しコロナと戦っています。

ふれあい通信

「さりげない見守り」の啓蒙活動として始めたふれあい通信も56号まで発行しました。「今、できること」を中心に「新しい生活様式」に沿って、「とじこもり」を防止し、コロナ疲れを回避する情報の発信を続けています。

